

# 極早生ウンシュウの着色促進及び日焼け軽減対策

利用対象：ミカン栽培農家

## < 背 景 >

新品種「みえ紀南1号」は早熟で9月中旬に収穫できる品種。収穫初期は未着色の緑色の状態であり、美味しさを伝えにくい。



着色促進技術の開発が求められる。

近年の猛暑の影響によりウンシュウミカン等の日焼け果の発生が増加し、減収につながっている。

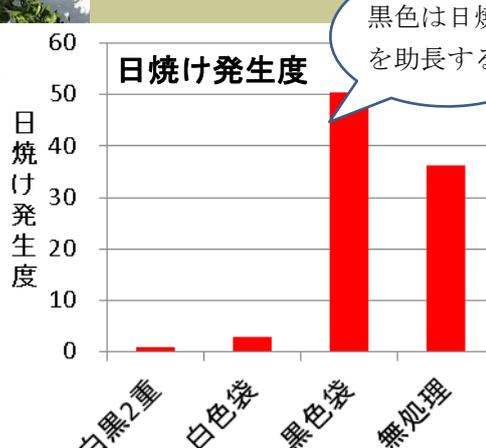
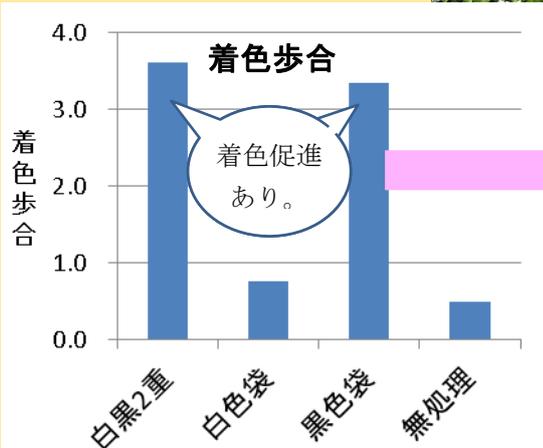


日焼け軽減対策の開発が求められる。

## 収縮性果実袋を使った対応技術を整理



収縮性果実袋



白黒2重がけ



### 注意!

#### 糖度への影響

処 理	糖 度
黒色袋	11.7
白色袋	12.4
白黒併用	12.2
無処理	12.1

※黒色は糖度が下がることがあります。

白色袋



着色促進には白黒2重がけ  
(黒い袋を内側にする)

見た目にマッチした味に仕上げることが大切です。マルチ栽培に限定すべき技術です。

日焼け軽減には白色袋

## 1. 背景とこれまでの課題

「みえ紀南1号」は早熟で9月中旬には美味しく食べられる品種ですが、外観はまだ着色していない緑色なために、美味しさが伝わらず購買意欲の向上につながりにくい状況です。このため着色促進技術の開発が求められています。また、近年は温暖化等の影響によって、夏場の高温による果実の日焼けが発生し問題となっています。日焼けによる減収を軽減する技術の開発が求められています。

## 2. 成果の概要

- (1) 果実の着色は、8月中旬～下旬に収縮性果実袋（T社製、幅7.2cm、長さ12cm筒状）の黒色の上に白色をかける「白黒2重がけ」をすることで促進され、着色歩合で2～3分程度高まります。
- (2) 日焼け果の発生は、白色の袋を被覆すれば果実表面温度を5～8℃程度低くすることができ、8月中旬または8月下旬に白色タイプを被覆することによって軽減することができます。なお、果実品質への悪影響も見られません。

## 3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

- (1) 極早生ウンシュウの着色促進及び日焼け軽減対策として活用できます。
- (2) 収縮性果実袋は1枚当たり価格9.5円程度ですが、数年間の再利用が可能です。

## 4. 普及上の留意点

### <着色促進技術>

- (1) 着色向上技術の利用については、着色に見合った果実品質が確保できるようマルチ栽培に限定すべきです。
- (2) 着色促進対策の場合は、8月中旬または下旬頃に白袋（外側）と黒袋（内側）の2重にして、樹全体の果実にかけます。しかし、太陽光を遮る黒色袋を使うために、8月中旬以前の早い時期に被覆すると糖度が低くなることがあるので注意する必要があります。また、外側に黒色を用いると顕著に糖度が低下します。

### <日焼け対策>

- (1) 日焼け対策の場合は、8月中旬頃に白色袋を直射日光が良く当たる果実にかけます。なお、外側に黒色を使うと果実表面温度が高くなるため、日焼けの発生を助長します。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 須崎徳高、市ノ木山浩道 中央普及センター 村田博則	電話 05979-2-0008 電話 0598-42-6323
参考になる資料	なし	
研究実施予算	産学官連携「みえのリーディング農産商品等」開発事業	